

# 神楽通信

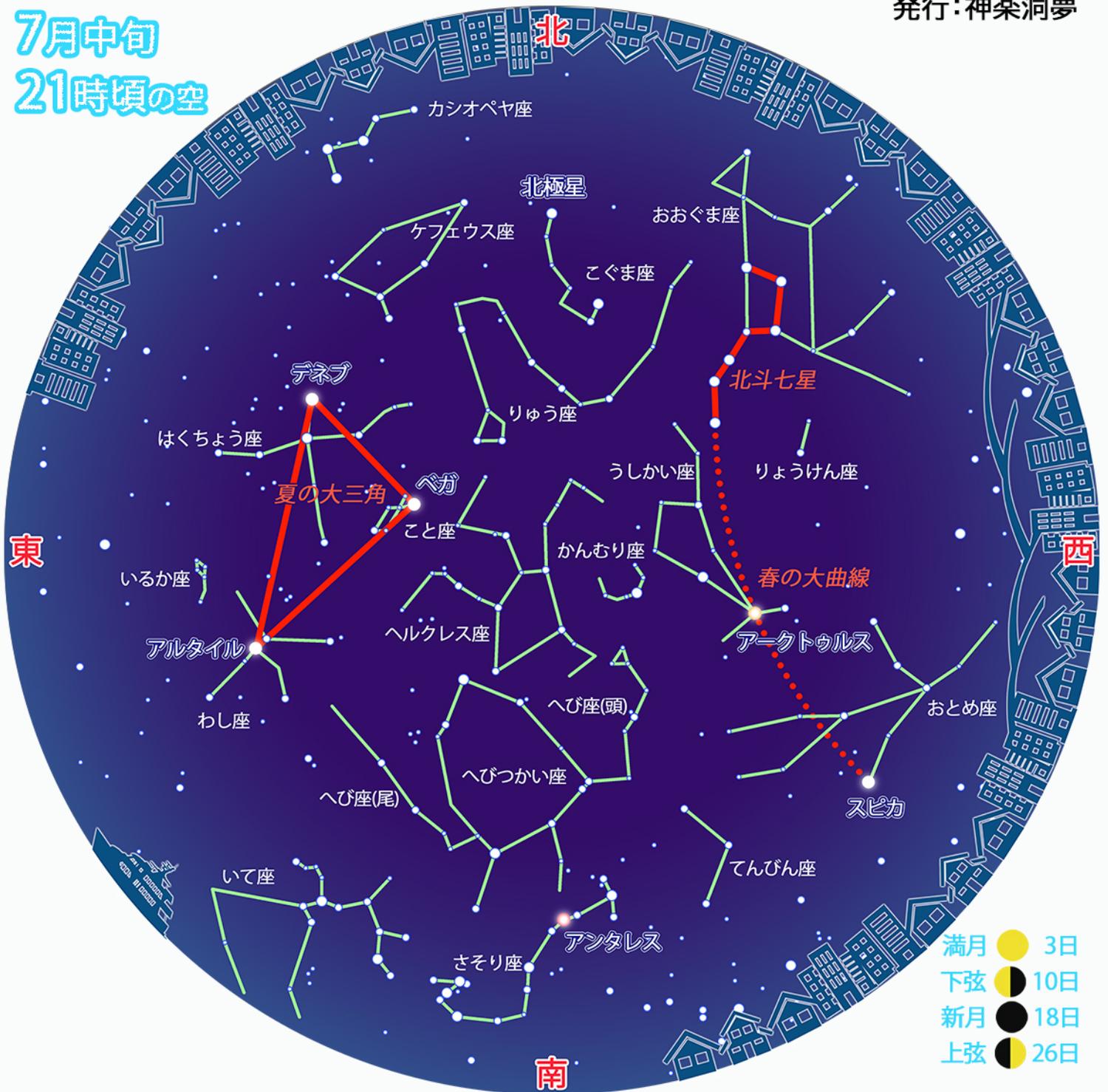
No.89

2023年

7月号

発行:神楽洞夢

7月中旬  
21時頃の空



7月7日は七夕ですが、そのころの宵空では「織姫星」のべがと「彦星」のアルタイルは東の空から昇ってきたばかりで、あまり目立ちません。夜が更けるにつれ、夫婦の二星は見えやすくなります。一方、西の空には「春の夫婦星」ともいわれるうしかい座のアークトゥルスとおとめ座のスピカを見つけることができ、この時季の晴れた星空では、春と夏の夫婦星を楽しむことができます。

## こと座に輝く1等星 ベガ

夏の星々の中でひとときわ輝いているのが、七夕伝説の「織姫星」としても有名な、こと座の1等星「ベガ」です。

わし座の「アルタイル」、はくちょう座の「デネブ」とともに「夏の大三角」の一角をなし、明るさは0.03等級で、太陽を除けば全天で5番目に明るい恒星です。

ベガは、全天に輝く星々のなかでは比較的太陽系から近くにある星で、その距離はおよそ25光年になります。質量は太陽のおよそ2.1倍ほどで、表面温度は平均9000度ほどです。

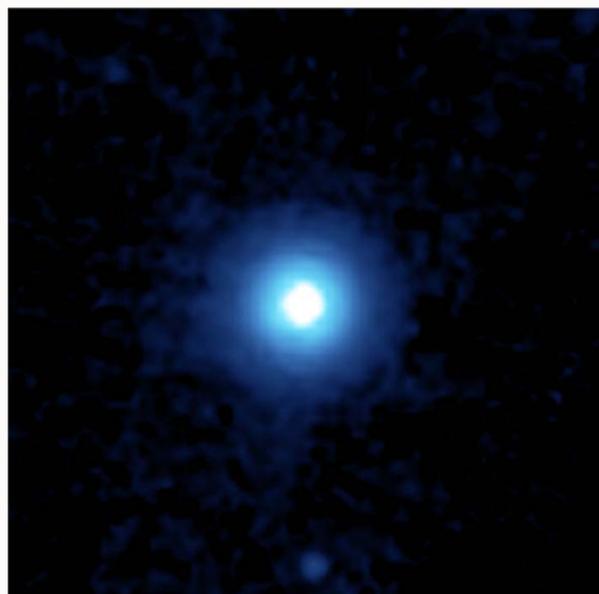
年齢も4億～5億歳と若く、太陽と同じく中心部で水素がヘリウムにかわる核融合反応しゅけいれっせいが起こることで輝いている「主系列星」です。太陽よりも高温のため、白色に輝いて見えます。

また、ベガはとても高速で自転しており、少し潰れたミカンのようなかたちの星と考えられています。その自転周期はおよそ12時間半と、太陽の自転周期(およそ1か月)と比べると、その速さには驚いてしまいます。

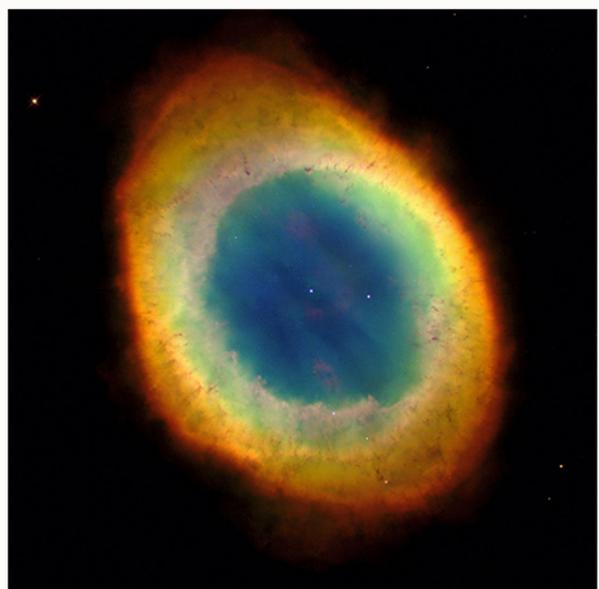
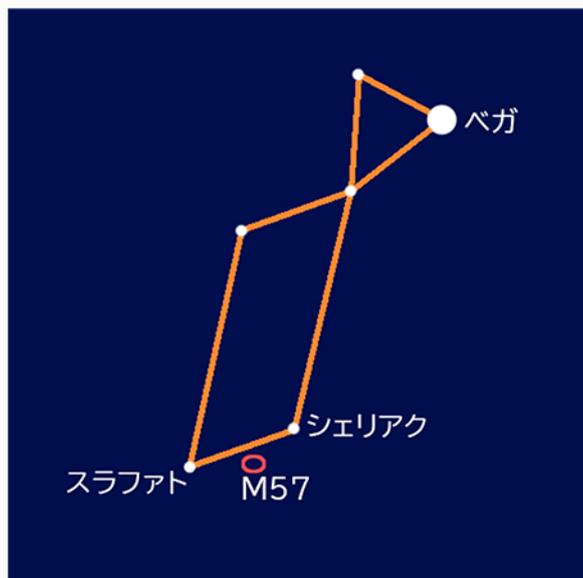
## 星空に広がるリング M57

こと座を結ぶ3等星のシェリアクとスラファトの間には、リング状に見えることで有名な「惑星状星雲」のM57が存在しています。

M57は太陽のような恒星の一生の最期の姿で、外層のガスを大量に宇宙空間に放出し、中心核はくしょくわいせいが「白色矮星」として残っています。放出されたガスは今なお秒速20kmほどの速さで広がっており、白色矮星から放出される強力な紫外線によって輝いている姿が、私たちからはリング状に見えています。



NASA/JPL-Caltech/University of Arizona



The Hubble Heritage Team (AURA/STScI/NASA)

